

【飼料作物】の【降灰】対策について

<通年>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【飼料作物】

(1) 予想される被害状況

- ・土壌のpHの低下
- ・飼料作物の嗜好性の低下

(2) 事後対策

①収穫作業及び次回作付けにおける留意点

- ・収穫作業は、収穫物にできるだけ降灰が付着しないよう天候や風向きに留意し、できるだけ降灰の少ない時期を見て行う。
- ・刈り取り時は、土や火山灰が混入しないよう刈り高をやや高めに調整する。
- ・攪拌集草時には、ほ場の火山灰を撒き散らないよう適正な作業機の高さに調整した上、トラクターの作業スピードを落とす。
- ・集草後は速やかにフィルムでラップするなど、火山灰が付着しないように保管する。
- ・収穫作業後は、作業機のメンテナンスを行う。
- ・降灰が厚く積もった場合には、土壌の化学性を調査した上で、土壌改良資材等の施用を行う。

表) 飼料作物土壌の適正範囲

作物名	pH
飼料用トウモロコシ	5.5～6.5
ソルガム	
スーダングラス	
ローズグラス	
ミレット	
イタリアンライグラス	
エンバク	
飼料用イネ	

②給与時の留意点

- ・乾草、サイレージは、貯蔵施設の密閉やシートをかぶせるなど、火山灰がはいらないよう工夫する。※少量の付着であれば、特に家畜の健康に問題はない。
- ・火山灰は強酸性の場合があり、嗜好性の低下も考えられるため、できるだけ火山灰を落として給与する。
- ・火山灰の付着により嗜好性の低下が見られた場合は、火山灰の混入のない飼料等と組み合わせて給与する。
- ・飼槽の清掃を行い、火山灰ができるだけ家畜の口に入らないようにする。